

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイルブーケ放課後等デイサービス たんぼぼクラブ		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床美術士の資格を有する講師による陶芸活動や臨床美術プログラムを取り入れ、児童の自由な表現を尊重しながら感性や創造性を育む支援を行っています。これにより、情緒の安定や自己肯定感の向上につながるよう取り組んでいます。	作品の出来栄だけで評価するのではなく、子どもたちの思いや制作の過程を大切にしながら声掛けや振り返りを行っています。完成した作品は近隣の郵便局に展示させていただいたり、みんなで講習会を行うことで、達成感や自己肯定感を高められるよう取り組んでいます。	創作活動後の振り返りの時間を設け、児童が自分の作品について発表したり、互いに感想を伝え合うことで自己表現の機会を大切にしています。さらに、地域施設での作品展示を継続し、創作活動の充実を図っていきたくと考えています。
2	同法人内で生活介護事業を運営しており、卒業後の進路も見据えながら継続的な支援ができる体制を整えています。子どもたちの今だけでなく、将来の生活や社会参加を見据えた支援を大切にしています。	同法人内で生活介護事業を運営していることを踏まえ、卒業後の進路を見据えた支援を意識している。日々の活動の中で生活力や社会性の向上を図るとともに、保護者との情報共有を行いながら将来の生活を見据えた支援に努めています。	同法人内で生活介護事業を運営しており、卒業後の進路を見据えた支援体制を整えています。今後は見学や交流の機会を検討しながら、児童や保護者が将来の進路を具体的に考えられるよう支援の充実を図っていきたく。
3	日々の活動の様子をブログで紹介し、保護者様に子どもたちの様子を分かりやすく伝えるとともに、児童の活動への意欲や楽しさにつながるよう工夫しています。	ブログや連絡帳を通じて日々の活動の様子を保護者様と共有し、児童の様子が伝わるよう工夫することで安心感につながるよう努めています。	日々の活動の様子をブログで発信する際には、児童の「できたこと」や成長の様子を取り入れ、保護者様に分かりやすく伝えるとともに、児童の自信や自己肯定感の向上につながるよう工夫しています。今後は、活動のねらいや児童の言葉なども紹介しながら、情報発信の充実を図っていきたく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での内部研修の機会が十分に確保できておらず、支援方法の共有や支援の質の向上に向けた学びの場が限られている。	日々の支援業務や送迎業務等により、職員がまとまって研修を行う時間の確保が難しい状況がある。また、外部研修への参加が中心となり、事業所内での学びの機会が十分に設けられていないことも要因の一つと考えられる。	今後は、短時間でも職員が集まり支援内容を振り返る機会を設けるなど、内部での学びの場づくりを検討していく。また、日々の支援の中での気づきや事例を共有するケース検討の機会を取り入れ、職員間の共通理解や支援の質の向上につなげていきたい。
2	地域施設での作品展示等の取組は行っているが、地域との交流活動の機会については今後さらに広げていく余地がある。	日々の支援や送迎業務を優先する中で、地域との交流活動を計画的に実施する機会が限られている。また、地域の関係機関や活動とのつながりづくりについて、十分に検討する時間が確保できていないことが要因の一つと考えられる。	今後は地域資源の情報収集を行うとともに、地域施設の利用や地域行事への参加など、地域との関わりを広げていく取組を検討していきたい。
3	卒業後の進路を見据えた支援については意識して取り組んでいるものの、見学や交流など具体的な取組の機会は十分とは言えない。	日々の支援活動を優先する中で、進路支援に特化した取組を計画的に実施することが難しい状況がある。	同法人内で生活介護事業を運営していることを活かし、今後は進路に関する情報共有や見学機会の検討など、将来を見据えた支援の充実を図っていきたく。